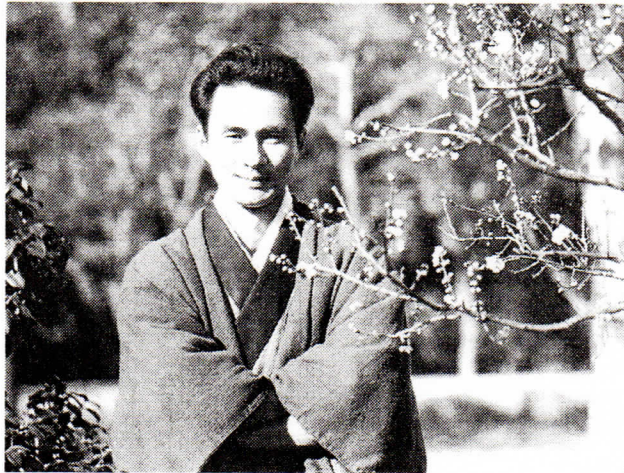


命日の11日前後 フォーラムや記念展

晩翠賞、H氏賞受賞 盛岡の詩人

村上昭夫、生誕85年



村上昭夫

今年には盛岡市の詩人村上昭夫（1927〜68年）の生誕85年。同市で10月11日の命日前後に、記念のフォーラムや展示会が相次いで企画され、結核による闘病生活を送りながら、珠玉の作品を残した孤高の詩人に光を当てる。詩集「動物哀歌」で土井晩翠賞とH氏賞をダブル受賞した優れた詩人を知ってもらう機会になれば、と関係者は期待している。

村上昭夫は一関市大トリウムでの入院生活 投稿を始め、詩の選者東町に生まれ、岩手中の間に詩誌「首輪」のの村野四郎を師と仰学（現岩手高校）を卒 同人となる。

業後、45年旧満州（現 退院後の53年から岩 繰り返すが、詩友らの 中国東北部）の浜江省 手日報「日報文芸」に 協力で「動物哀歌」を など朗読する。

官吏として大陸に渡る。終戦後の46年秋に 帰国。翌年から盛岡郵便局に勤務するが、50年に結核を発病。サナ

孤高の作品、人柄に光

「岩手の宝、知ってほしい」

67年に発刊し土井晩翠賞を受賞。さらに翌年、H氏賞に選ばれたが41歳で死去した。「動物哀歌」は動物をモチーフにした詩が多く収録され、村野四郎はその序で「これほど単一的に透明な、深く悲しく、しかも破壊力をもつ詩をよんだことがない」と絶讃。75年には詩「私をうつらぎるな」を刻んだ碑が盛岡市高松の市立図書館に建立された。

村上作品にコオロギ夫の同級生の歌人岡沢がよく登場することか敏男さん（盛岡市）を「こおろぎ」と題パネリストに迎え、人柄と作品について語る。入場無料、定員200人。

同フォーラムは、岩手高同窓生や県内の詩人らが中心になり、生誕85周年記念事業実行委（高橋克彦委員長）を立ち上げ企画。

実行委事務局で、岩手高OBの赤沢征夫さんは「村上昭夫の名を知る人は最近少なくなり、詩碑の存在も知られていない。岩手の宝といってもいい詩人であり、広く世に知らしめたい」と話す。

第2部は、盛岡市の作家高橋克彦さんをコ―ディネーターに、日報文芸・詩の選者城戸朱理さん（盛岡市出身、神奈川県鎌倉市）、詩人の北畑光男さん（岩泉町出身、埼玉県上里町）、斎藤彰吾さん（詩人、北上市）、村上昭夫か、村上昭夫の詩を題材にした詩画集なども展示する。入場無料。

同展は、午前10時から午後6時まで。11月5日は正午まで。毎月第2火曜日休館。

